

分科会の記録 <第5 A分科会 教職員の専門性に関する課題>

【提言者2】長崎県 長崎市立仁田佐古小学校 播本 文貴
【提言主題】教職員の資質向上を図り、魅力ある学校をつくるための教頭の役割 ー 若年教師の資質向上を図るための工夫 ー
【協議の柱】若年教師の資質向上を図るための副校長・教頭の役割
【グループ協議 報告】 ・若手職員をベテランの先生方で支援していこうとする仕組みがある。コロナ禍の中で、ミニOJTという先生方の集まりを行ってきた。若手にベテラン教員のノウハウをいかに伝えるか。校務分掌を職員間の協議で決める工夫。若手でも力のある職員に分掌を割り当てている。 ・よいところを伸ばす指導を心がける。生徒指導上の相談に積極的に声をかける。校内の若手の研修会。若手を支える仕組みの工夫。風通しの良い職員室。ミドルリーダーの活用で、縦・横のつながりを作る。若手研修でベテランとつなぐ。コミュニケーションを大事にし、困り感に対応する。 ・若手教員の授業をよく見て声をかける。ベテランと初任者をペアにしてレベルアップを図る。初任者指導教員や研究主任、教務主任などを中心として指導する。コロナ禍で若手教員の集まりができないので、不安な面がある。精神的なゆとりのつくり方を学ばないといけない。保護者対応は複数体制である。 ・GIGAスクール構想で、若手の力が生かされている。年齢に関係なく、得意とするところを効果的に校務に反映させる。ベテラン層の活動や実践を若手層に参観させる機会を設定する。知りたい内容についてアンケートを取り、必要性に応じた研修を設定。3人組体制をつくり、3人で授業を見せ合う。 ・ゴールの明確化とイメージの共有。組織全体で分担して対応する。勤務時間内の研修の場の確保。校内人事をバディ制にする工夫。得意分野の先生の授業を参観させる。若手集団がお互いの力量形成のために課題を共有したり、相談したりする。 ・悩みがある、聞きたいと思ったときに話せる環境・関係づくり。日常的にコミュニケーションをとる。初任者の認識、考えをしっかりと聞いたうえで助言する。保護者対応は学校全体の問題としてチームで寄り添いながら考える。外部講師の活用を主軸において指導。自信を持てできる分野で若手の力を発揮させる。
【指導助言：全公教顧問会】（富山県富山市立大久保小学校長 林 哲哉 氏） ○ 教科指導について ・教材研究の時間確保ができるか。ICT活用や部活動日の校時表見直しなどを含めて、ゆとりをもてるか。 ・教材研究の具体的方法を指導し、自主研修の意欲を高めることが大事である。勤務時間内に教材研究を終わらせることは難しいので、日頃から課題意識を持っておくことが大切。楽しい授業づくりに喜びを感じることが大切。教材研究の充実のため、教科担任制を導入することも学校によっては可能である。 ○ 学級経営について ・①若手教員の学級経営に組織的な指導で取り組むこと②特別支援教育の視点をもつこと③学級経営上の難しい問題については、関係機関に相談することの3つが大切である。 ・他学級の授業や特別活動、給食準備や掃除指導等、自由に訪問、視察できる環境づくりを行い、時間があるときに若手教員が参観できるようにする。 ・教頭は教職員の「個」の良さを伝えていく。そのためには、様々な問題に対応できる心のゆとりが大切。 ○ 保護者対応について ・保護者からの要求を3つのフィルターで判断する。①学校ができる要求なのか。②学校がやるべき役割なのか。③正当な要求なのか。 ・保護者対応のマニュアル作成や、研修会を行うことが大切。 ・学校は、保護者に対するサービス業ではなく、学校と保護者は、それぞれの役割を果たすパートナー。教師の専門性を高めることが保護者との信頼関係を高めることにつながる。
【指導助言：佐賀県】（佐賀県西部教育事務所教育指導監 石橋 佳樹 氏） ○ 提言及び協議を通しての感想 ・若年教師の育成の目の付け所を明確に整理されている。 ・学級経営については、若手とベテランを組み合わせ、授業や生徒指導、掃除や給食指導等、日常的な情報を共有できるようにした。若手は気兼ねなく相談でき、ベテランの刺激にもつながる。 ・保護者対応についても、学級経営と関連させて若手とベテランの組み合わせの中で相談体制を作るようにしていた。想定された事案によって対応策を考えておき、サポート体制とチームでの対応が大事である。 ○ 若年教師の資質向上を図るための基本的な考え方と具体的な整理 ・まずは健康であること。笑顔で児童生徒の前に立てることが一番大切である。 ・スキルアップや結果を急がず、試行錯誤が大事。日々の積み重ねの意識で研鑽を積むことが大切である。 ・「自分らしさ」を大切に、児童生徒の指導に当たる。自分の持つよさをちゃんと評価すること。 ○ 5つのキーワード「つ・み・か・さ・ね」 ①「つ・なぐ」職員間を、見えない糸でつなぐ。本音を伝え合い、前向きに悩む。 ②「み・守る」職員の今を見つめながら、心の中で（がんばれ）とつぶやきながら常に視界に入れておく。 ③「か・かわる」ここぞという時に傾聴し、遠慮なく指導助言をする。若手より一歩前に立って先導を。 ④「さ・さえる」笑顔と深い懐で「大丈夫」と一言。勇気づける。 ⑤「ね・がう」長期的な視野で、その人のことを願う。願っていることを発信する。